

二〇二五年度

共愛学園前橋国際大学

一般選抜B

国語試験

(一一:〇〇～一一:〇〇)

〔注意事項〕

- 一、試験時間中に机の上に置ける物は、受験票、筆記用具、消しゴム、時計（時計機能のもの）のみです。これ以外のものは試験時間中に使用することはできません。
- 二、試験終了時には、解答用紙のみ提出し、その他は持ち帰ってください。
- 三、解答用紙には、受験番号・氏名を忘れずに記入してください。
- 四、不正行為があったときは、直ちに退室を命じ受験資格を取り消します。それ以後の受験はできません。すでに受験したすべての科目も無効とします。
- 五、試験中、質問がある場合や、気分が悪くなった場合には、手をあげて試験監督者から指示を受けてください。
- 六、試験監督者の指示があるまで、退席しないでください。

第1問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

客観主義美学から主観主義美学への転換は、美と芸術の「自律」と呼ばれる事態をもたらすことになりました。自律とは、外部から定められたルールに支配されておらず、自由であるということです。具体的にはどのようなことか紹介したうえで、現代の私たちは美とどのような付き合い方がよいのか、少し考えてみたいと思います。

^A カントの主観主義美学の功績はなによりも、美を道徳から切り離したことにあります。これによって、道徳的によいものが美しくそうでないものは醜い、という美が善に従属する関係が否定されました。

「真善美」という言葉を聞いたことがある方も多いのではないのでしょうか。哲学が探究してきた三大価値を表すものです。

真と善と美が対等に並べられるようになり、このフレーズが人口に膾炙したのは、19世紀のこととされています。それぞれはカントの3つの主著（『純粋理性批判』1781、『実践理性批判』1788、『判断力批判』）に対応しているとされます。つまりカントが『判断力批判』で善と美をシユンベツしつ、自身の哲学体系を完成させたことによって、美が真や善と並ぶ地位を占めることが認められるようになっていったのです。

カントは道徳だけでなく、美の条件とされることが多かった機能性や有用性からも美を解放し、美の自律性を強調しました。

カントによれば、美は概念や目的に基づかないのです。よって「何々であれば美しい」「何々として欠けるところがなければ美しい」「何々に役立つものであれば美しい」といったことは成り立ちません。

^I 時計は、部品に不備がなく正確に時刻を示すのであれば、あるいは時刻を知るのに役立つものであれば美しい、ということにはなりません。実際、壊れた時計に美を感じることもありえます。同じように、廃墟となった教会はもはや教会として使用することはできませんが、カントの立場にたてば、廃墟の美を論じる可能性が開かれます。

美が自律的であるなら、何にでも美を見いだしてよいことになります。廃墟のようにそのものとしては不完全なもの、道徳や宗教や社会に反するようなもの、^C 倒錯的なもの、醜いと言えるようなものでも、その人が美しいと感じさえすれば美しいものになります（カ

ント自身は、他人の意見に流されず自分の感じ方に従うという意味で、趣味に対して「自律」という言葉を使っています。

こうした美の自律性は、19世紀をとおしてますます強調されていきます。そして世紀の後半になると、フランスとイギリスの文芸を中心に「唯美主義（耽美主義）」と呼ばれる潮流が生じました。【A】

唯美主義とは、美は真や善よりも上位にあり、美の追究こそが人生と芸術における唯一の目的である、と考える立場です。【B】シャルル・ボードレール（1821～67）やオスカー・ワイルド（1854～1900）が代表です。ボードレールの詩集『悪の華』（1857）やワイルドの小説『ドリアン・グレイの肖像』（1891）は、いずれも発表当時、反道徳的な内容が物議を力^イモしました。このふたりは実生活でも放埒^{ほうちやう}で耽美的な日々を送ったことで知られています。

近代の唯美主義は、美の自律性が極端にまで押し進められることで、頹^{たいはい}廢的な態度に結びついた例と言えます。

美の自律性は、芸術の自律性に直結します。【C】

芸術の自律性とは、芸術が道徳や宗教や政治などに縛られないことを言います。現在の私たちからすると、芸術に当然の権利のように思われるかもしれませんが、しかしそのよう^Dなことはありません。

芸術はかつて特権階級が占有していました。【D】彫刻や音楽などは神殿や宮殿を飾り、神や君主の威光を示すために制作されました。また、文芸の役割は「楽しませつつ教えること」、つまり読み手を教化することだと古代から繰り返し語られてきました。芸術は芸術以外のものを目的にし、その目的を果たしているかどうかによって評価されてきたのです。

芸術（美しい諸技術）という概念が18世紀に「美」と「技術」が結びつけられることで誕生したとき、シャルル・バトウーは芸術とは Ⅱ と主張しました。さらにカントが美の概念そのものから道徳などを切り離します。これによって、芸術を自律したものとする見方が確立されたことになります。

道徳や宗教や政治などに縛られないということは、芸術は何を表現してもよいということになります。それゆえ芸術の自律性は、芸術家が自由に自己表現することを促します。天才美学や表現理論の登場には、パトロネージやギルドからの独立と芸術の公共化といった社会的な背景だけでなく、美と芸術の自律という思想的な背景もあったのです。

「芸術」は18世紀の中頃から末にかけて、「美しい諸技術」から「アート」の一言で言い表されるようになります（ちなみにカントはまだ「美しい諸技術」という表現を使っています）。その間には、天才としての芸術家の出現、模倣理論から表現理論への変遷、主観主義美学の確立、美と芸術の自律といった変化が起こっています。「美しい諸技術」から「アート」へ変化した背景には、こうした出来事が絡み合いながら発展していったことが考えられます。【E】

さて、やはり美の自律性と同じく、芸術の自律性は19世紀になるといつそう声高に唱えられます。

19世紀のフランスでは「芸術のための芸術」というスローガンが生まれました。芸術は芸術だけを目的にするべきで、道徳や宗教や政治などに役立つ手段になるべきではない、という見解を表明した言葉です。哲学者ヴィクトル・クーザン（1792～1867）に由来し、詩人で批評家のテオフィル・ゴーティエ（1811～72）が喧伝（ウ）しました。イギリスやアメリカにも広まり、このスローガンを支持する人々の立場は「芸術至上主義」とも呼ばれます。

芸術が芸術を目的にするということは、近代ではつまり芸術は美だけを目的にすることを意味します。そのため芸術至上主義は唯美主義とも重なります。

こうして、美と芸術を自律したものであるべきとする思想は、19世紀にその頂点を迎えました。

美の主観主義が優勢になったのも、そこから美や芸術の自律性が主張されるようになったのも、ただか250年前のことです。^Eそうした価値観が近代の産物であるということに自覚的であつたほうがよい、ということです。

先に断っておきたいのですが、私は主観主義的な美の捉え方には共感を覚えます。唯美主義や芸術至上主義も、芸術の可能性を広げ、豊かな作品を生みだしました。これらを否定したり、中世以前に戻るべきだと主張したりするつもりはありません。

またヒュームが道徳感覚学派を代弁して言っていたように、感情に不正解はないとも思います。たとえコウジョリョウゾク^Eに反するものであっても、その人がそれを美しいと感じることはどうにも動かしようがありません。

しかしながら、主観主義美学に基づいた美（や芸術）の自律性がときに常識か普遍的真理かのように語られることがあります。そうした事態に対しては、近代美学史に携わる身としては危うさを感じるのです。

ここで網羅的に論じる紙幅はありませんが、2点だけ指摘しておきたいと思います。

まず、美の政治性についてです。

戦争の美化が分かりやすい事例でしょう。戦時中、国のために命を捧げることは美しいことだと刷り込まれます。軍服は格好よくデザインされます。軍事パレードは壮麗に演出されます。こうしたものは、美しいからという理由だけで肯定されてよいのでしょうか。美や芸術に罪はないのでしょうか。

顕著な例を出しましょう。

ドイツの映画監督レニ・リーフェンシュタールは、ナチスのプロパガンダ映画を担当したことで、戦後は激しく糾弾されました。他方で、彼女の代表作『オリンピア』（第1部『民族の祭典』、第2部『美の祭典』 1938）は、その映像美が高く評価されています。この映画は、ヒトラー主導のもと国家事業として開催されたベルリン・オリンピックを撮影したものです。作品の美しさと、ナチスへ協力した責任をどう捉えるべきか、こんにちに至っても議論が続いています。

私はここでリーフェンシュタールの作品について評価を下したいわけではありません。ただ彼女自身の発言からすると、リーフェンシュタールは美しいものを作ることだけを追究し、政治どころか、自分の作品がもつ政治的な機能にさえ無関心でした。そしてそのことに何の罪もないと考えていたようです。

美や芸術に携わる人は、どのような場面であっても政治や道徳に無関心でいてよいのでしょうか。美を理由にすれば何でも正当化されるのでしょうか。意見が分かれるところかと思いますが、私はそうした態度は是認しがたいと感じます。

もちろん創作する側だけの問題ではありません。ある政治家や政党をただポスターや服装が格好いいからといった理由だけで支持することは、現代でも見受けられることでしょう。

美に耽溺^オし、美だけを追い求めることは、ときに取り返しのつかない破滅を招くことになります。^F19世紀的な価値観を前提にして美を素朴に称揚することで、他者の生命や尊厳を脅かすようなことはあってはなりません。そのことを私たちはリーフェンシュタールの例から学ぶべきではないでしょうか。

もうひとつ指摘しておきたいのは、私たちが何を美しいと感じるかは、後天的に方向づけられる部分があるという点です。純粹に自

分の心で感じているつもりでも、その感じ方は文化や制度によってかたちづけられている可能性があります。

人の容姿を例に出せば明白でしょう。痩せた体型かふくよかな体型か、二重のぱっちりとした眼か一重の切れ長の眼か、大きな口か小さな口か、時代や地域によって好まれるタイプは変動します。

現代一般的に美しいとされる容姿は白人を理想にしたもので、メディアの発信などをつうじて社会的に形成されたものです。近年はルッキズムへの反省から、メディアにも多様な体型や顔立ちのモデルが起用されるようになりました。それでも少くない人が、肌の“美白”を目指したり、まふた瞼を二重に整形したりしています。

もちろん、自分が美しいと思う姿に近づこうとすることは非難されることはありません。しかしその美の感じ方は、社会的に形成された規範が無意識のうちに内面化してしまっているものではないか、それが自身や他人を苦しめるものになっていないか、振り返ってみてもよいかもしれません。

私は美しいものが好きです。哲学が精神の薬なら、私にとって美は心の薬です。美を感じてこそ、楽しいことばかりでない日々も生きやすくなると感じます。しかし美の力は大きく、ときに毒にもなります。だからこそ、美の自律性は近代に確立されたものであり、その価値観が普遍的ではないことを意識しておくのがよいのではないでしょうか。

（『近代美学入門』井奥陽子）

問1 傍線部A「カントの主観主義美学」について、筆者が説くところのカントの考え方と合致しているものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は[1]。

① カントの主観主義美学とは、美は対象の美術品の中にあるのではなく、美術品を作り上げる作家の心の中にあるということを言う。ただしその美は主観とはいえ社会的に許容される美でなければならぬ。

② 美しい彫刻作品には自然の節理にしたがった美しさがある。それは彫刻家が創り上げたというより、自然の中に押し込められていた美を神の導きによって作家が解放したといった方がよい。

③ 中世的な美学の足枷から解放された芸術は、人々を教化するために不道德な愛の姿や犯罪の場面まで芸術作品の対象とすることができるようになった。

④ 美は真や善に従属してきたと言われるが、そもそも美は真や善と比較するものではない。何が善で何が美なのか、それは各人の心の中にある基準に照らせばよいことである。真善美の価値は自分の主観に従って判断すべきだ。

⑤ 主観主義美学によるならば、もはや典型的な美などというものは存在しない。虐殺の場面であろうと不道德な愛の姿であろうと、美しいと感じる人にとっては芸術的な価値がある。

問2 傍線部B「人口に膾炙した」、C「倒錯的なもの」の意味として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号はB [2]、C [3]。

B「人口に膾炙した」

- ① 広く知れ渡るようになった
- ② 口にすることがはばかれるようになった
- ③ 人口に影響を与えた
- ④ 好んで使われるようになった
- ⑤ 問題視されるようになった

C「倒錯的なもの」

- ① 自分よがりな偏った考えから身勝手な創作活動を目指すもの
- ② 人々の注目を集めるためにわざと不健全な作品を創作するもの
- ③ 既成の観念や形式を壊し、実験的な創作を試みたもの
- ④ 反社会的で超現実的な創作を試みたもの
- ⑤ 正常とされる状態とは逆の、反社会的・反道徳的なもの

問 3

I に入る最も適当な語を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 4。

- ① しかしながら
- ② 確かに
- ③ そして
- ④ たとえば
- ⑤ 高価な

問 4

次の の中の文は、文章中の【A】～【E】のどこに入るか、A～Eの記号で答えよ。解答番号は 5。

近代では、そして近代においてだけは、芸術とは美しいものであり、美しいものの代表は芸術だったからです。

問 5

傍線部D「そのようなこと」とはどのようなことか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 6。

- ① 美の自律性が、芸術の自律性に直結すること
- ② 芸術が道徳や宗教や政治などに縛られていること
- ③ 芸術家にはものを創作する権利があると思われること
- ④ 芸術家が自由に自己表現することは当然の権利だということ
- ⑤ 文芸の役割は人々を楽しませながら導くこと

問6 Ⅱ に入る語句として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は7。

- ① 人々の心に平穏をもたらすものだ
- ② 有用性を目的にしないものだ
- ③ 機能的な美を目指すものだ
- ④ 反道徳的な美を描かないものだ
- ⑤ 人々の心を愛で満たすものだ

問7 傍線部E「そうした価値観が近代の産物であるということに自覚的であつたほうがよい」を分かりやすく言い換えている表現がある。文中より四十五字以上五十字未満の表現を探し出し、最初と最後の四文字を記せ。解答番号は8。

問8 傍線部F「19世紀的な価値観」に含まれていない概念を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は9。

- ① 美や芸術の自律性
- ② 芸術のための芸術
- ③ 芸術至上主義
- ④ 客観主義美学
- ⑤ 主観主義美学

問9 次の会話は、この文章を読んだ生徒の会話である。生徒Aく生徒Eの発言で最も文意になっている生徒は誰か、AくEの記号で答えよ。解答番号は10。

生徒A 筆者は主観主義的な美の捉え方については批判的よね。行き過ぎた唯美主義や芸術至上主義が極端にまで押し進められたことで、頹廢的な社会が生まれたと言っているわ。

生徒B そうかなあ、主観主義的な美の捉え方には共感を覚えるって言ってるよ。唯美主義や芸術至上主義が芸術の可能性を広げたのは確かだけど、中世以前の客観的美学からも学ぶべきだって言ってるんじゃないのかな。

生徒C 確かに芸術主観主義の問題点を指摘しているよね。自分の主観で美しいと判断しているつもりでも、実は国や地域社会の価値観が内面化したものかもしれないって。自分でも意識しないうちに作られた価値観が自分自身を苦しめているというところもあるかもしれないなあ。

生徒D リーフエンシユタールは美しいものを作ることだけを追究したっていう点では芸術至上主義者だよな。でも筆者に言わせれば、彼女の作品はナチスドイツのプロパガンダ作品であり、評価に値しない。間接的に芸術至上主義を批判しているんだね。

生徒E いや芸術至上主義を直接的に批判してるんじゃないの。美が持つ力は大きいのに政治や道徳に無関心でいていいのか。芸術の為だけじゃなくて、政治や道徳についても芸術の力を使うべきだって考えているんじゃないのかな。

問10 傍線部アくオについて、カタカナは漢字で書け。漢字は読みを書け。解答番号は ア11、イ12、ウ13、エ14、オ15。

第2問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

著作権の関係で表示しておりません

著作権の関係で表示しておりません

著作権の関係で表示しておりません

著作権の関係で表示しておりません

著作権の関係で表示しておりません

（『人が人を罰するということ』山口 尚）

問1 傍線部A「自由をめぐる問題」について、筆者はこの文章において「自由」をどのようなものとして位置づけているか。最も適

当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は 1。

- ① 人間の行為の責任を問うときにどの程度の罪に相当するかを判断する基準となるもの。
- ② ただ生じるだけの出来事と自分らしい行為とを区別するときには有効な概念となるもの。
- ③ 法則に従った現象しか認めない科学的世界観の下では実際には存在しない概念となるもの。
- ④ 科学的世界観を受け入れる上で人が人らしく生きていくために欠くことのできない価値となるもの。
- ⑤ 人間としての行為をただ生じるだけの出来事の中から取り出すときの判断材料となるもの。

問2 傍線部B「この世界観から導き出されるだろう帰結が、私の心を捕らえて離さなくなった」とあるが、「心を捕らえて離さな

くなった」とはどういうことか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は 2。

- ① 帰結が導く問題に思考の自由を奪われこの問題以外の問題には関心が持てなくなってしまったということ。
- ② 学者として生きていく上での研究課題が定まり生涯この課題に取り組む決心をしたということ。
- ③ 帰結が導く矛盾した状態を説明するまで考え続けなければならない状況に陥ってしまったということ。
- ④ 理科系の学生だった私が問題を解決するために学部を変更して哲学を学ぶきっかけとなったということ。
- ⑤ なかなか結論にたどり着くことができず理論が空回りしてしまい思考停止状態に追い込まれたということ。

問3 傍線部C「それ以外のもの」とは何のことか。文章中の九字の語句で答えよ。 解答番号は 3。

問4 文章中の D に当てはまる最も適当な語を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は 4。

- ① 積極的
- ② 自主的
- ③ 主体的
- ④ 能動的
- ⑤ 客観的

問5 文章中の E に当てはまる最も適当な語を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 5。

- ① また ② つまり ③ しかし ④ そして ⑤ だから

問6 傍線部F「首尾一貫」の類義語となる四字熟語を答えよ。ただし、「首」「尾」「一」「貫」の四字のうち、いずれか一字を用いた四字熟語とする。(二字以上用いてはいけない。) 解答番号は 6。

問7 傍線部G「矛盾は解消されなかった」のはなぜか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 7。

- ① 「それでも人間は自由な選択主体だ」と言えるようになったために「一切はただ生じるに過ぎない」と言わなくて良い根拠が得られたから。

- ② 「それでも人間は自由な選択主体だ」と言えるようになっても問題の全面的な解決には至っておらず不快感が払拭されることはなかったから。

- ③ 科学的世界観を全面的に認めて「一切はただ生じるに過ぎない」と言い切る魅力を捨て去ることはできないから。

- ④ 「それでも人間は自由な選択主体だ」と言えるようになっても「一切はただ生じるに過ぎない」ことを否定することはできないから。

- ⑤ 「それでも人間は自由な選択主体だ」と言えることを科学的世界観を受け入れることの根拠とすることはできないから。

問8 傍線部H「〈自由〉や〈選択〉の適用対象は存在せず」について、五人の生徒が意見を発表した。生徒A～生徒Eの発表において、文章の趣旨から最も外れているのは誰か。A～Eの記号で答えよ。解答番号は 8。

- 生徒A 適用対象が存在しないということは、ここでは「自由」や「選択」という語を使用する状況とか場面とかがなくなっただけのことです。

- 生徒B 確かにその通りだと思います。純粋な物理現象的世界像を認める人たちは「自由」や「選択」という概念を認めていません。

生徒C けれど「自由」や「選択」という語は実際に使っているのだから使用する対象がなくなってしまうというのはおかしいです。

生徒D だから、もし科学的世界観を全面的に肯定するなら、その場合には「自由」や「選択」という語を使う機会がなくなってしまうことになるということですね。

生徒E 逆に「自由」や「選択」という言葉を使うならば、その概念によって「ひと」という行為の主体を確認することができるようになるのだと思います。

問9 傍線部I「自己矛盾なしに主張することができない」とはどういうことか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。
解答番号は9。

- ① 命題の主張には自己矛盾が含まれていないということ。
- ② 自己矛盾しているから命題を主張することはできないということ。
- ③ 自己矛盾が含まれていないので命題の主張は成立しないということ。
- ④ 命題を主張するためには自己矛盾が生じてしまうということ。
- ⑤ 自己矛盾していないことが命題を主張する条件であるということ。

問10 文章中のJには次の①～⑤の五つの文を正しく並べ替えてできる文章が当てはまる。正しく並べ替えたときに三番目の文となるのはどれか。次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は10。

- ① ——このように、ひとが「自由な選択は無い」と主張するさい、そこには必ず自己矛盾が含まれるのである。
- ② もし《自由な選択は無い》という命題が正しいのであれば、この世には《誰かが主張を行なう》という「ひとが何かをする」とも無いことになる。

③ なぜならこの場合に私は、一方で自ら何かを主張しているにもかかわらず、他方で《主張するという行為はどこにも存在しない》と述べているからだ。

④ したがって「自由な選択は無い」と主張するひとは、この世には〈ひとが何かを主張すること〉すら無いと主張している。

⑤ そしてまさにこれを理由として「自由な選択は無い」と主張する私は自己矛盾する。

問11 波線部ア～オについて、カタカナは漢字で書け。漢字は読みを書け。解答番号は ア¹¹、イ¹²、ウ¹³、エ¹⁴、オ¹⁵。